

# やまばと通信

多摩市立図書館 情報誌 185号

日本の夏  
図書館の夏

主な記事

p. 1

「秋色おはなし会のお知らせ」

「はじめてのよみきかせ報告」

「絵本よみきかせ講座《中級》」

開催します

p. 3

「旅の本」

「亀山郁夫氏 講演を聞いて」

「蔵書点検を行いました」

「マナーアップキャンペーン」

返却期限をお守りください

## 「秋色おはなし会」

IN 永山フェスティバル



ボランティアの皆さんと一緒に「秋色おはなし会」を行ないますので、ぜひお越しください。

第1部は赤ちゃんから楽しめる、わらべうたや布あそび、特大絵本のよみきかせなどです。

第2部は幼児から楽しめる昔話などの語り（かたり）を中心に、よみきかせや本の紹介、手あそびなども取り入れたじっくり聞くおはなし会です。

あわせて、布の絵本を展示します。フェルトなどでかわいい動物や登場人物を動かしたり取り外したりして遊べる絵本です。

ご家族で楽しいひとときを、お過ごしください。

【日時】9月25日（土）

第1部…午前11時～午前11時25分

第2部…午前11時40分～午後12時10分

※布の絵本は16時まで展示しています。

【会場】ベルブ永山4階 視聴覚室

（永山図書館の上階）

【事前申込】不要 直接会場にお越しください

【問い合わせ】多摩市立図書館・本館 子ども読書支援担当

電話：下記参照 平日9時半～17時受付

詳しくは 図書館内のポスター・チラシをご覧ください。



木版画「緑風」 豊ヶ丘在住・室谷隆司さん作。春に生まれ、夏を乗り切れた幸運なヒナだけが秋に自立してゆめくことが出来る（作者HPより）

多摩市立図書館

〒206-0033 多摩市落合2-29

(電話)042-373-7955

(FAX)042-375-9459

図書館ホームページアドレス <http://www.library.tama.tokyo.jp/>

携帯電話アドレス

<http://www.library.tama.tokyo.jp/i/>

2010年 8月 発行



# 「おうちでのよみきかせ」報告

7月15日に、地域や学校でボランティアとしてよみきかせ活動を始めた方、これから始めてみたいと考えている方を対象に「はじめてのよみきかせ」講座を実施しました。

前半は、図書館職員が本の持ち方やページのめくり方、発声の仕方、本の選び方など、読み聞かせをする際におさえておきたい基本的な事柄について話をしました。後半は、グループに分かれ、参加者全員に絵本を1冊読んでいただき、図書館職員からアドバイスをさせていただきました。

参加者からは、「本を持つ時にはどう持つなどの具体的な話があり、参考になりました。」「他の方のよみきかせを聞くことができて良かったです。」「自分の読み方のチェックもできました。」「今後も楽しい気持ちでよみきかせを行なっていきたいです。」「との声がありました。

10月には中級講座を予定しておりますので、興味がある方は、是非ご参加ください。  
詳しくは下記をご覧ください。



## 2010年は、国民読書年。 よむことをひろげよう！

多摩市立図書館



全3回

### 絵本よみきかせ講座《中級》

～スキルアップ！ボランティア「実践編」～

例年大好評の「よみきかせ講座」の講師・石川道子先生を今年もお招きします。

今回の講座は、スキルアップのための「実践編」。「連続3回」ではなく、第1回と第2回に間があいているのは：そう、その14日の間に練習をし、皆さんの前で絵本を読んでいただくためです。

実際に大勢の方の前で読み、また他の方々のよみきかせを聞くと、気づくことや参考になることがいっぱいあります。よみきかせを始めたばかりの方も、ベテランの方も奮ってご参加ください。

【日時】 10月7日・21日・28日(木)  
各日 10時～12時  
(全3回。14日(休)はありません)

【場所】 図書館本館・講座室

【対象】 市民文庫・お話会等でよみきかせをしている方及びよみきかせに関心のある方  
(市内在住・在勤・在学及び活動の拠点が多摩市の方優先)

【講師】 石川道子氏 (こうさぎ文庫主宰)

【定員】 先着40名(全3回出席可能な方)

【保育】 2歳以上就学前まで、お菓子代300円

【申込・問合せ】 多摩市立図書館 本館 講座担当

電話：一面参照 平日9時半～17時  
保育の申込は 9月15日(水)まで



本を開くと、目の前に異国の地や

故郷の香りが広がる。

そんな旅の本を読んでみませんか？



### 梅棹忠夫のへ旅への記録

『モゴール族探検記』 岩波新書 1956

『東南アジア紀行』 中央公論社 1964

『サバンナの記録』 朝日選書 1976

著者は今年7月死去された「文明の生態史観」で知られる初代国立民族学博物館長。著作は民族学から文明論、情報論など多岐にわたる。この三冊は50年代後半〜60年代前半に行なった若き著者のフィールドワーク時の記録である。『モゴール族探検記』はアフガニスタン、『東南アジア紀行』はタイ、カンボジア、ベトナム、ラオス『サバンナの記録』はタンザニア。といっても公式報告書ではなく、また単なる紀行でもない。著者独特の読みやすい平易な文章で書かれている記述からは刊行後50年を経たいまでも、当時の様子がいきいきと浮かび上がる。『モゴール族探検記』でのモンゴルから遠く離れたアフガニスタン奥地の部族に中世モンゴル語を話す人を探しあててくんだりなど圧巻である。  
(以上の三冊は『梅棹忠夫著作集』所収)

(H.O. さん)



### 『鬼降る森』

高山文彦著 幻戯書房 2006

てんそんこうりん

宮崎県の高千穂は天孫降臨の地、神話の里として知られる観光地です。九州山地の奥深く抱かれた小さな町並み、険しく切り立った峽谷美の高千穂峡、深い影と濃い緑の中に佇む高千穂神社。旅行ガイドブックで紹介される風景はどれも神秘的で、立ち入り難い雰囲気を感じています。  
とは言え、人里であればそこには必ず人々の生活があるもの。この本からは「神々の里」で暮らし生身の人々の、神々しさや厳かさからは距離を置いた妖し気な匂いが漂って来るかのようです。

(M.M. さん)



### 『インドへ行こう』

長谷川まり子著

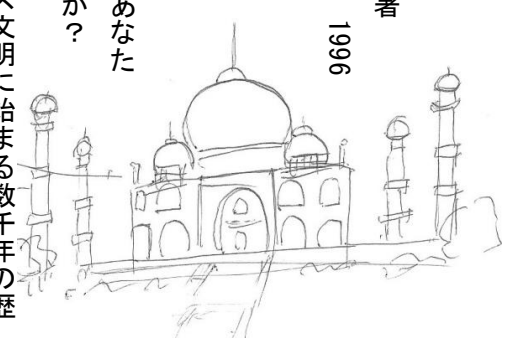
スターツ出版 1996

暑い！  
暑い夏こそ  
暑いところへ  
行こうと思っっているあなた  
インドへ行きますか？

インドって、インダス文明に始まる数千年の歴史の国、世界第二位の人口の国、多様な文化・民族・言語の国、いっぱい知っているのに、なぜか遠い国のような気がしていませんか。そして評価も様々…。もし行ってみたいと思う人は、ぜひこの本をお勧めします。

著者は、普通の日本人女性。ごく自然にインドに一人旅し、様々な人に出会い、色々な地方に足を運び、自分の目で見て、食べて、そして経験してきたことをありのまま書いています。この本を読むとインドがどんどん近くに感じてきます。インドへの第一歩を踏み出してみたいくなる、インド旅行入門書です。

さらに深くインドを知りたいなら…  
『河童が覗いたインド』 妹尾河童著 講談社  
『インド旅行記』 中谷美紀著 幻冬舎  
も併せてどうぞ。  
(J.M. さん)

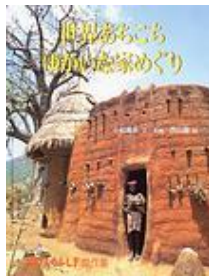


### 『世界あちこち ゆかいな家めぐり』

小松義夫文・写真 西山晶絵

福音館書店 2004

帽子をかぶったおしゃれな家  
屋根に目のある家  
地面の下にある家  
さかさまの屋根の家  
どんぐり形の家…



世界中のあちこちにある、楽しい家が写真で紹介されています。家の中や暮らしの様子も解説され、いろいろゆかいな発見があります。

著者は、行く先々で、はじめて会うにも関わらず、家に入れてもらったり、お茶や食事に招いてもらったりしたそうですよ。(R.S. さん)

## ■亀山郁夫氏 講演を聞いて

去る7月10日、図書館と関戸公民館との共催事業として、亀山郁夫氏（東京外国語大学学長・ロシア文学者）による国民読書年記念講演会「ドストエフスキーと現代」が行なわれました。



当日の会場。別室でのモニター聴講を含め、233名が受講されました。

世界のグローバル化、フラット化の進行する中で、様々な格差社会、戦争やテロによる無差別殺人、麻薬の汚染など絶え間なく混沌とする今日こそ、ロシア帝政末期のキリスト教を理想としながらも、神が革命かの根本的な問いに引き裂かれ、ついに生命そのものへの信仰に至る意義深いドストエフスキーが提起する問題をあらためて考えさせられる講演会でした。

世界文学の最高峰と謳われながらも、難読の象徴であった『カラマゾフの兄弟』や『罪と罰』などの作品を分かりやすく翻訳し、さらに、単に形式的、機械的な翻訳だけにとどまらず、現代に通用するその感覚と問題意識を繊細に甦らせた

翻訳姿勢を今回の講演会でお聞きし、若きときに読んだこれらの作品に再び触れてみたいと感じました。

皆さんも亀山郁夫氏の新訳で、ドストエフスキーの作品を読んでみませんか。また、6月に刊行された自伝的なエッセイ集『ドストエフスキーとの59の旅』（日本経済新聞出版社）も是非ご覧ください。



亀山氏直筆の色紙  
「飲こびの経験に貪欲で！」  
色紙は関戸図書館で展示中です。

## 蔵書点検を行いました

5月末から6月にかけて、全館の蔵書点検を行いました。休館中はご迷惑をおかけいたしました。

図書館には3月末時点で約75万4千点の蔵書がありました。その内2,679点が行方不明となっていました。

今回の作業で、資料のデータと現物を一致させ、また棚の整理なども行なうことができました。ご協力をいただき、有り難うございました。

## マナーアップキャンペーン

### 返却期限をお守りください！

図書館では、返却期限を過ぎた資料をお持ちの方への督促を、定期的に行なっています。

その連絡数、1年間でなんと31,255回！（去年のメール・葉書・貸出停止文書の延べ人数）右記の定期督促の他に、次にお待ちの方がいらっしゃる資料については、随時各館から電話での督促連絡をしています。

資料を延滞すると、督促の郵送料や手間がかかるだけでなく、他の方の利用を妨げることになります。特に、予約がある資料の返却が遅れると、お待ちの方々に大変な迷惑をおかけすることになります。

### 図書館の資料は、必ず期限内にお返しください。

2週間で読みきれない場合、期限内で他の方の予約がなければ、返却期限の延長ができます。パスワードをお持ちの方は、図書館ホームページからご自身で延長できますのでご利用ください。また、一度延長した資料を再度お借りになりたい場合は、窓口まで資料をお持ちください。

パスワードがあると、期限の延長だけでなく、ホームページから予約もできます。（※図書館のカードの番号が9もしくは7で始まる方のみ。）パスワードの発行には、カードと「カードの持ち主ご本人だとわかる物・保険証等」が必要です。

